



大阪びんリユース推進協議会は 2014年2月19日発足しました

2017地域協議会 第2回交流会 12月12日

発足以来何をしてきたか

リユースびん入り飲料の啓発活動

リユースびん入り飲料
「茶々」の開発



リユースシステムの
構築

行政・市民の
イベント参加

行政・環境団体
との連携



リユースびん入り飲料の開発

「茶々」は、
1917年7月第5回目の製造を行いました。

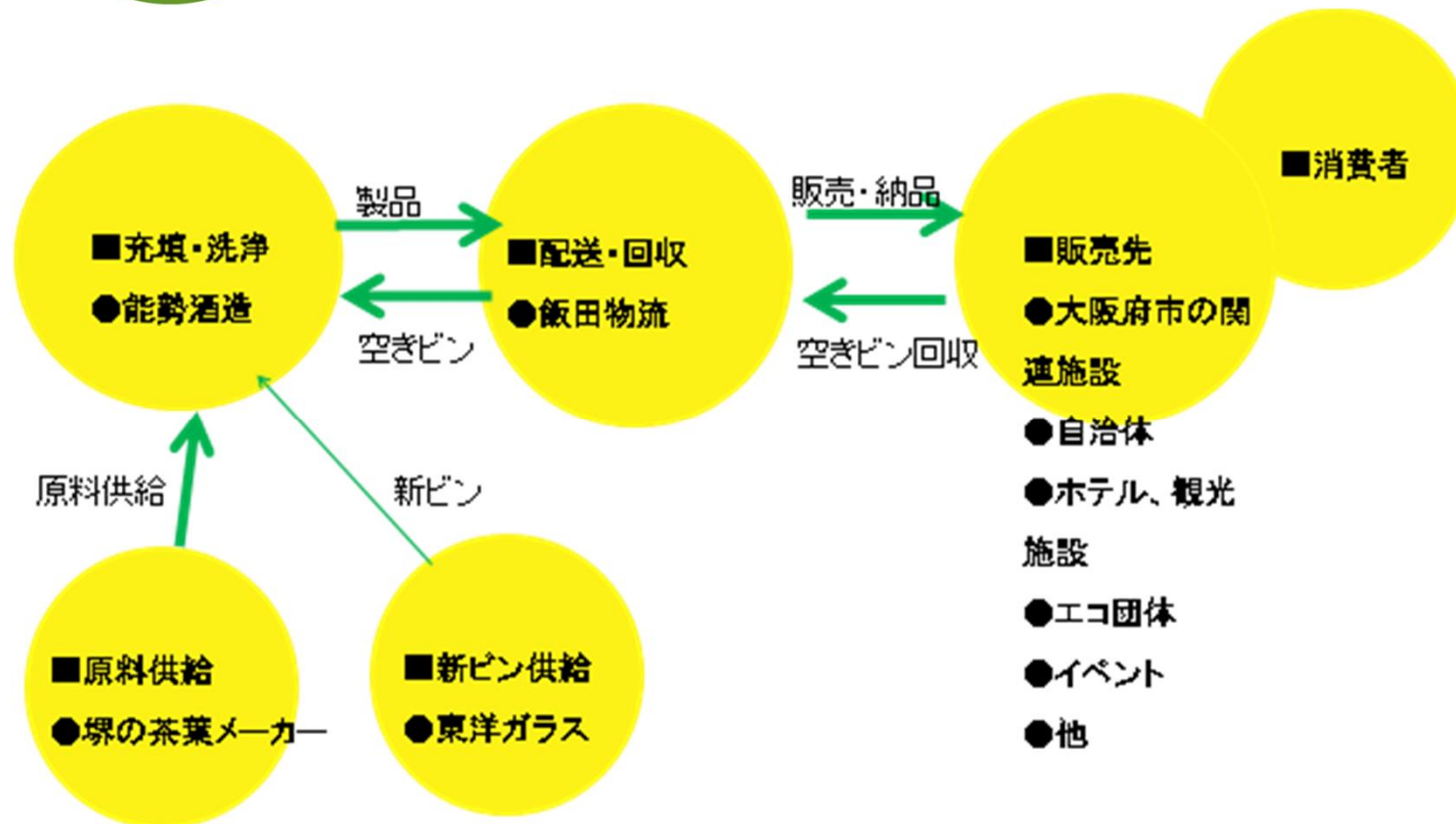
- 製造数は3,540本(新びん投入はありません)。
- 過去5回の製造累計は200本(初回3,820本、2回目4,860本、3回目4,000本、4回目4,180本)ですが、これに対し投入したびん(RドロップスⅡ)の数8,995本。
- 初回4,025本、2回目4,975本なので、これまでのところびんは1本当たり2.3回転したことになります。

課題

- 安定した品質保持が難しい
- 情報発信ができていない
- 採用先の開発ができていない
- 安定して製造できる費用が確保できていない



リユースシステムの構築



課題

<酒販店>が減少し、配送・回収が難しい

行政・市民のイベント参加

大阪市主催 ごみ減量フェスティバル



大阪府主催 ECO縁日



天王寺区民まつり



課題

- リユースびんを知る市民が少なくなり、関心も薄い
- リユースびんでなくてはならない理由付けが難しい
- 出展側の人数確保が難しい
- イベント主催者、出展者との連携強化

行政・環境団体との連携

堺市庁舎内での リユースびん推進

堺市庁舎内で利用される湯茶に「茶々」が推奨されるが、接客用であり、庁内すべてがリユース飲料になるわけでもなく。成果はあまりでていない。

課題

- 成果がでない原因の一つが予算
- トップダウンが近道と考えるが、堺市に代表されるように大阪のトップには理解がない
- 継続的、断続的に採用してもらえない自治体の開発

環境に配慮した湯茶の提供について

本審議会において、ごみの減量化(リデュース、リユース)及び環境負荷の低減(二酸化炭素排出量の削減、省エネルギー化など)を図ることを目的に、環境に配慮した湯茶の利用に取り組んでいます。

○環境に配慮した湯茶の商品例

- ① 堺市役所本庁地下食堂『森のキッチン』による会議用お茶
・環境に配慮した湯茶の提供に向けて、本庁地下食堂『森のキッチン』の協力のもと販売開始。
・お茶そのものを購入し、繰り返し使用できる湯呑で提供することにより、ごみの減量につながる商品。



『森のキッチン』会議用お茶

【商品詳細】

- ・お茶はポット入りで販売、お茶以外に湯呑、茶托、ふきん等貸し出し付
- ・障害者就労支援施設である『森のキッチン』による商品であり、障害者優先調達推進につながる商品(障害者作業所による手作り湯呑を使用)
- ・堺市創業の老舗茶舗「つば市製茶本舗」の特選ティーバックを使用

- ② リユースびん入りお茶『大阪撰茶 茶々』

- ・大阪府内でのお茶の地産地消、リユースシステムの構築をめざした商品
- ・紙コップ等のワンウェイ容器ではなく、繰り返し使用できるガラスコップ等に入れて提供することにより、ごみの減量につながる商品。
- ・ごみの減量を目的に平成27年度から本審議会でも利用



『大阪撰茶 茶々』

【商品詳細】

- ・大阪府内におけるリユースびんシステムの普及・啓発に努める「大阪びんリユース推進協議会」※が販売する、カーボンオフセット付の環境にやさしい商品
- ※ 環境省の実証事業に参画するなど、大阪府下でリユースびんシステムの構築をめざして設立された団体

行政・環境団体との連携

天神祭ごみゼロ大作戦2017

(2017年7月24日25日)



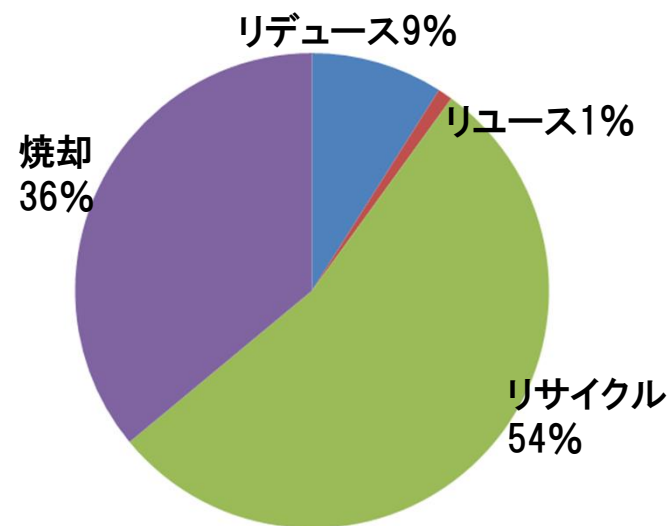
構成団体:大阪市／公益社団法人大阪府産業廃棄物協会／一般社団法人大阪市一般廃棄物適正処理協会／大阪神農商業協同組合北支部／大阪市ボランティア・市民活動センター／社会福祉法人大阪ボランティア協会／天神橋筋商店連合会／なにわエコ会議／大阪府地球温暖化防止活動推進センター／NPO法人大阪府民環境会議／NPO法人ごみゼロネット大阪／大阪ごみ減量推進会議／大阪びんリユース推進協議会/Rびんプロジェクト／World Seed／NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone

- エコステーションをエリア内に14か所設置
(Lサイズ1か所、Mサイズ2か所、Sサイズ4か所、SSサイズ3か所、案内所4か所)
- リユース食器の導入



その結果、 資源ごみの回収量がゼロから824kgに

	内容	重量
リサイクル	びん	434kg
	かん	158kg
	ペットボトル	232kg
リユース	うちわ	19kg
リデュース	水分除去	135kg
焼却	その他	554kg
総量		1,532kg



※エコステーションとは別に
拾い歩きで**371kg**を回収

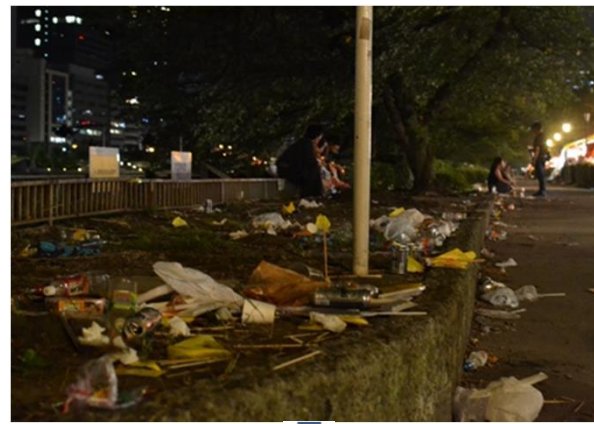


そして、驚くほど きれいな天神祭になりました

上段 2016年



下段 2017年



行政・環境団体との連携

地球温暖化防止活動推進センター、 大阪府民環境会議との連携による情報発信

■リユースセミナー協賛
大阪府地球温暖化防止活動推進セミナー
「ごみゼロ大阪に向けて
～まつりdeリユース Part2」
(2016年11月12日)開催
※2017年度は1月20日開催予定

■大阪府民環境会議（OPEN）と
連携強化

実績

- 吉川商店見学
- カタシモワイナリー視察



大阪びんリユース推進協議会の 問題と今後の課題

1. 会員の確保
2. 運営資金の確保
3. 活動の在り方の見直しと限界
4. 大阪府下一円のびんリユースに係る団体・企業の発掘と連携
5. びんリユース推進全国協議会、各地域協議会との連携

大阪だけではできない次のようなことも課題

- 中味メーカーとの連携
- びん牛乳メーカーとの連携
- グリーン購入法「特定調達品目」表示
- 規格統一化リユースびんの開発
- リユースびんの環境評価
- 消費者への広報

2018年に向けて

「茶々」を中心とするリユースびん入飲料の普及とその条件づくりに取り組みます。

1. 第6回目を製造します(但し、費用面で大変困難な状況です)。
2. 自治体など、断続的にでも、継続的に購入してもらえる販売先を開拓します。
3. 販売店になってもらえる酒販店等を開拓します。
4. 「茶々」に限らずリユースびん入飲料を提供できる仕組み作りについて、びん リユース推進全国協議会等での動きに関心を寄せつつ研究します。
5. 自治体ごとの環境計画等でのリユースの取り扱いを調査します。
6. イベントでの販路について、これまでの実績に基づき効果的に取り組みます。
7. 条件づくりについて、会員等の協力を得ながらすすめます。

大阪の環境諸団体と連携してごみゼロの社会的呼びかけをすすめます。

1. 「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」に事務局団体として参加します。
2. イベントへの参加にあたってイベント全体へのごみゼロの呼びかけと連携 できるようにします。

大阪府下一円のびんリユースに係る団体・企業の共通のテーブルづくりを引き続き目指し、調査や訪問活動を行います。

メールと年に1回の総会での情報共有の頻度を上げ、問題と課題解決を会員全体で行います。

ご清聴ありがとうございました

